治安維持法犠牲者に国家賠償法の制定を!!

第50回目の国会請願に１１万余筆

長野から６人参加 1万1585筆提出

第５０回の節目の「国会請願行動」は、５月１６日に行われ、全国から138名が参加。久々の10万筆を超える11万1382筆の署名を提出、120の国会議員室に要請訪問しました。長野県からは、6名の代表が参加し、1万1585筆の個人署名と120筆の団体署名を提出し、地元選出の6議員を要請訪問しました。大石県本部副会長が長野のとりくみを報告しました。

不屈
長野県版
第５０７号
2023年5月15日

治安維持法国賠同盟
長野県本部
〒380-8790
長野市県町５９３
高校会館内
連絡　竹村利幸方
TEL・026-226-0854
FAX・026-266-0864

国会請願

直接訴えることの大切さを実感

県本部副会長　沢田　佐久子

5月16日、大変暑い日でした。コロナ禍後、数年ぶりに全国から33県１３８名の参加で、国会請願行動が行われました。提出署名数は10万筆を大きく上回り、11万１３８２筆。コロナ禍で東京等近隣で行なってきましたが、久しぶりに全国各地からの参加で、私も数年ぶりの参加となりました。

最初に、吉田万三会長からごあいさつがあり、その後、立憲民主党の近藤昭一衆院議員、日本共産党の山添拓参院議員があいさつの後、数えで１０２才になる生活図画事件犠牲者・菱谷良一さんからの発言がありました。高齢にもかかわらず、かくしゃくとされていて、「学生の身でありながら捉えられた。平和のために頑張りましょう。息の続く限り訴えていきたい」と話され、熱い思いが伝わってきて、参加者が励まされました。

その後、請願行動を行いました。長野の６人は、３組に分かれて議員を回りました。私の組は、あいにく議員不在で、秘書対応でしたが、預かった署名をしっかりと、渡して来ました。とても暑い日だったので、「休んで行って下さい」と冷たい麦茶を出してくれた事務所もありました。私たちの組は、今までも紹介議員になっていただいている方々でしたので、．対応も良く引き続きのお願いをしました。昨年の紹介議員は１０９名ということで、今年はもっと上回りたいとの報告がありました。久しぶりに参加して、やはり、直接、訴えることの大切さを感じました。

私も国会請願行動に参加

ひと言 感想を

事務局　小林 信夫

私も請願行動に参加しましたので、ひと言経過と感想をお伝えします。請願行動に先立つ全体集会で吉田万三会長は、現政権が「戦争できる国から戦争する国にギアチェンジ」を進める緊迫した情勢だからこそ、我が同盟の「存在意義」を発揮し無ければならない、と請願行動の意義を強調されました。

激動の国会より、立民・近藤昭一衆院議員と日本共産党・山添拓参院議員から激励あいさつがありました。山添議員は、当日に審議入りした「入管法」委員会審議の合間を縫って駆けつけていただき、歴史的にも「入管法」は戦前の外国人弾圧・迫害のゆがみが戦後の憲法の中でも解消されないままで、国会でもまともに論議されない状況で現在の入管法に引き継がれており、入管の異常な反人権体質・隠ぺい体質、そしてそのすべてが特攻警察譲りという点でも、「治安維持法」の問題にも共通する、と委員会報告をされました。

北海道の菱谷さん（中央）を囲み、長野県の６名の参加者

北海道から101歳の菱谷良一さんが駆けつける

会場には、昨年に続き北海道から「生活図画事件」の菱谷良一さん（101歳）のお元気な姿があり、今回は地元、北海道放送のテレビカメラが「追っかけ取材」で入る画期的行動となりました。治安維持法の直接的な弾圧の犠牲者として菱谷良一さんは、当時の関係者が少なくなるなか「息の続く限り、この不当を訴え、世界が平和と自由に満ちていくように皆さんと頑張りたい。」と話されました。

また菱谷さんと、憲法学者の小林 節さんの対談が行われました。小林節さんは「治安維持法による弾圧は国家の責任であり、政府が謝罪することは当然」と強調されました。この対談は『治安維持法と現代』の秋季号に掲載予定とのことです。要請行動後、報告・交流の全体会議が行われ、長野県からは大石副会長が１万筆を超えた請願署名のとりくみなどについて報告発言しました。来年は全国で20万筆の署名の到達を目指し、少しでも貢献できる活動にしようと決意を新にしました。

全体会議で報告発言する長野県本部大石信之副会長

北海道・生活図画事件とは　１９４１年（昭和16年）から１９４２年にかけて、北海道の旭川師範学校と旭川中学校の美術教師や学生、卒業生ら二十数人が治安維持法違反容疑で検挙された事件。教科書通りに絵を描くのでなく、生活や社会の実態をよく観察し、その中により良い生き方を求めて絵画で表現することが目標とされた。

県内外の動き

第94回メーデー　コロナ禍を克服し、県下10カ所で くらしと憲法守り、大軍拡・大増税ノー

県下のメーデーは、連合との統一メーデーを今年も実現し実行した須高地区をはじめ10地域で行われました。

賃金の大幅引き上げをはじめいのちと人権を守り、敵基地攻撃能力の保有、そのための大軍拡・大増税・憲法改悪に反対するプラカードが目立つメーデーとなりました。

長野県の中央メーデーは、長野市のひまわり公園を会場に、500名が参加して行われました。主催者を代表して細尾県労連議長は「憲法が暮らしに生かされ、大軍拡・大増税ノー」のとりくみを草の根的に各地でとりくもうと、呼びかけました。

大軍拡・ミサイル基地化を許さないとりくみ

（1）東森英男安保破棄事務局長が講演
―信州の教育と自治研究所総会で―

信州の教育と自治研究所は5月13日、総会を開いて今年度の方針を決定。総会後の記念講演は、会員を中心におよそ40数人が参加し、安保破棄実行委員会事務局長の東森英男さん（写真）が「安保3文書と沖縄・南西諸島の軍事化」にちうて話されました。東森さんは岸田政権が閣議で決定した安保3文書について解説し、とりわけ沖縄を中心とした南西諸島の軍事基地化とミサイル配備の重大性を指摘。中国を仮想敵国とし、そのための戦争する国造りであることに警鐘乱打しました

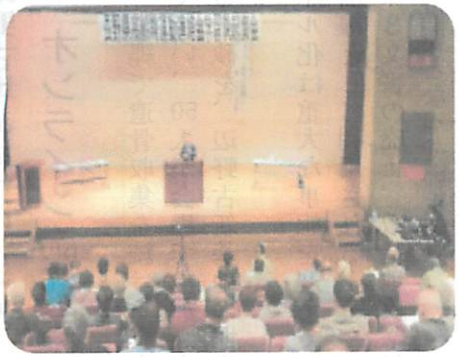
（2）高齢期運動主催　渡辺治一橋大名誉教授の講演
憲法9条活かした平和外交で大軍拡を阻止しよう!!

県高齢期運動連絡会と憲法9条を守る県連絡会の共催による情勢学習集会が4月30日長野市の女性会館しなのきで行われ、渡辺治一橋大学名誉教授が講演しました（写真）。150名が参加。

講演は「今、なぜ安保3文書か」を解き明かし、ポスト安倍の岸田政権の大軍拡、明文改憲で平和はつくれるかと厳しく問いかけ、「憲法9条は死んでいない。戦争させない78年を維持してきたことに確信を持とう」と呼びかけました。

「すばらしい講演でした。今までのどの講演よりも主旨も明確でわかりやすいものでした。DVDにして、学習会資料とすることはできないでしょうか。ぜひ実現してください」「時宜をえた講演会、実施していただきありがとうございました」等々の感想が寄せられました。

今、小集会を含め大軍拡、改憲問題での学習会や訴えが大切です。



しなのきの渡辺治さん講演会場

（次ページ下段につづく）

時局評論

G7広島サミットを論ず

被爆者の気持ち逆なで＝広島から核保有・核抑止を是認

対立の溝深めた排除と包囲論

編集部

G7とは、アメリカの軍事ブロック勢力の集合体で、米・日・仏・英・独・伊とカナダの7カ国です。今回の会合は、ホスト国が日本で開催地は被爆地の広島。気が付くままに、いくつかの点を列記します。

第1点は、核兵器についてです。参加者全員が原爆資料館を訪問したことは是とするも、唯一の原爆投下国である米国大統領として謝罪なり、釈明があってしかるべきだが、何のコメントもない。

第2は、アメリカの核保有・核抑止を認める一方、核兵器禁止条約については一言も触れず、核廃絶への進展は、何ひとつない。被爆者の立場や気持ちを踏みにじり、逆なでするものである。

第3は、ロシア・中国等に対する排除と包囲の論理に貫かれ、一段と対立と溝を深めたことである。自己陣営固めに汲々し、国際平和と緊張の緩和を本気で考えるサミットとはならなかった。

第4に、ウクライナのゼレンスキー大統領の急遽の参加で、サミットの雰囲気は一転し、一気に軍事支援へと進展した。米国のF16戦闘機の供与は代理戦争の様相を一段と強める結果となった。サミット参加国として、プーチンへの対話ぐらい打ち出すべきだろう。

最後に、岸田首相は、広島サミットを売りに、マスコミを総動員して支持率向上を狙い、政権維持のため解散総選挙に打って出る目算があるだろう。しかし、国民の目は彼の思惑とは裏腹に、冷たいまなざしとなっている。サミットを岸田の私利私欲の具にさせてはならない。今、冷静に広島サミットを回顧し、問題点を国民的に解明することが重要である。この拙論が、その一助となれば幸いです。

（3）沖縄戦遺骨の土砂を辺野古埋め立てに使うな

信州と沖縄を結ぶ会　オンライン講演会

信州と沖縄を結ぶ会は5月20日、沖縄で遺骨収集を続ける具志堅隆松さんの講演会をオンラインで行い、50人が会場で参加しました。縄戦の戦死者の遺骨の混ざる土砂を、辺野古新基地の埋め立てに使うなど、許せないことです。

沖縄等南西諸島の軍事化、ミサイル化は重大な事態を迎えています。沖縄がアメリカの戦争の最前線として利用される、そんな悲劇を再現させないためにも、安保3文書の廃止、敵基地攻撃能力・大軍拡の撤回のたたかいは、今重要となっています。

旧陸軍の戦争遺跡・登戸研究所の調査研究を!!

旧陸軍の登戸研究所の資料や遺跡など調査・研究を深めるシンポジウムが5月14日、駒ケ根市で行われ200人が参加しました。太平洋戦争の末期、登戸研究所は、川崎から駒ヶ根をはじめ中信地域に疎開。その実態と全容を解明するとりくみが進んでいます。シンポでは、山田朗さんの基調講演をはじめ4人による報告・討論が行われました。事務局長の松久芳樹さんは、6月15日から駒ヶ根市博物館で「戦争遺跡と登戸研究所」を展示し、登戸研究所のパンフを発行し市民的に広めたい、と語っています、

調査・研究会結成5周年のシンポジウムの会場